

Ⅱ 校内研修

確かな学力を身に付けた生徒の育成

～活用する力を伸ばす活動的・協同的な学びを通して～

1 主題設定の理由

本校は文武両道を建校の旨とし、自主・鍛練・友愛を具体目標（えがく生徒像）として掲げている。研修主題に掲げた「確かな学力を身に付けた生徒の育成」は、具体目標の「自主」（自主的・自発的な学習への取組により、確かな学力を身に付けた生徒）の具現化に結びつくものである。また、今年度は学校経営の基本方針の中に「基礎・基本の確実な定着と活用する力の向上」が挙げられている。そして副主題にある「活用する力を伸ばす活動的・協同的な学び」を授業改善の手立てとして取り入れることは、生徒が授業中に活躍する場を保障するという意味でも、学校経営方針の重点施策に挙げられている「主役として強く・美しく輝き合える学校づくりの推進」にもつながるものである。

本校の生徒は、日々の授業に落ち着いて取り組んでおり、与えられた課題に対しては真面目に取り組むことができる。昨年度の2月に行われた学力検査（CRT）の結果を考察すると、各教科に対する学習への関心・意欲はすべての教科で全国平均を上回っていた。しかし、学習内容の定着に関しては、教科や学年によって差はあるものの、全体としては全国平均を若干下回る結果となった。意欲や関心をもって学習に取り組む、基礎基本が少しずつ定着している一方、それを活用する思考力や表現力を問うような問題に関しては、まだまだ力が十分であるとはいえない。また、日頃の授業の様子を見ると、自分の考えを積極的に発表する生徒が固定化され、全員の意見を出し合い、それを練り上げて、より良い考えにまとめていくことなどは難しい状況にある。これらのような生徒の実態から、既習事項や基礎基本を活用する力、思考力・表現力を含めた総合的な学力に課題があるように思われる。生徒の学力の実態は、教職員の指導の状態を表しているとも言える。本校では、従来の指導の在り方を見直し、新しい学力観、指導観に立っての指導方法に転換することを目指し研修を進めてきている。その成果として、生徒達は学び合いを通して、意見を出し合い考えを深めていく活動が習慣となりつつあり、協同的に学び合うための明確な視点がある状態であれば、生徒主体の活発な意見交換ができるようになってきた。

そこで、今年度はこれまでの取組を更に充実させることにより、研修主題に示した生徒像の実現を目指したい。また、そのための研究・実践を通じて、我々教職員の指導力のさらなる向上を図りたいと考え、本主題を設定した。

2 研修のねらい

各教科において、既習事項や基礎的・基本的事項を活用し思考力・表現力を育むための活動的・協同的な学びを問題解決的な学習過程に取り入れることで、基礎・基本の定着とそれらを活用できる確かな学力を身に付けた生徒を育成する。

3 研修の経過

授は研究授業・授業研究会

指は指導案検討

全は全体会

部は部会

月日	内 容	研修の視点（上段）・明らかになったこと（下段）
4.23	<input checked="" type="checkbox"/> 全 今年度の校内研修の方向性についての共通理解、教科経営案（グランドデザイン）「個人研究テーマ」についての確認、指導案形式の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の取組の成果の確認及び今年度の研修主題、方向性の検討、グランドデザイン・個人研究テーマの確認 ・昨年度までの流れを踏襲し、「活動的・協同的な学び」を取り入れた授業改善を通して生徒の確かな学力を育んでいく。 ・研修テーマと副主題の方向性を職員間で確認できた。 ・外部講師による授業参観・講話を今年も継続して依頼する。 ・各教科におけるグランドデザイン、個人テーマを見直す。
5.21	<input checked="" type="checkbox"/> 全 研修テーマの決定、校内での授業研究の進め方についての共通理解、生徒の実態把握のためのNRT検査の結果分析	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の主題と副主題について全職員で共通理解を図り、グランドデザインや個人テーマを見直す。 ・NRTの分析結果と研修、授業研究等の進め方について ・生徒の実態から、「活用する力を伸ばす活動的・協同的な学びを通して」確かな学力を身に付けさせる。（研修主題） ・各教科の目標（目指す姿）と生徒の実態を比較し、それをもとにした努力点、具体的な取組を計画できるようにする。「個人研究テーマ」においては具体的な手だてを考えていく。 ・一人一授業と管理職が参観する授業を行う。
5.28	<input checked="" type="checkbox"/> 授 指導主事A訪問	<ul style="list-style-type: none"> ・研修主題や個人研究テーマに沿った授業実践と個別指導、全体指導 ・校内研修のキーワードである「活用する力」について、職員間の共通理解を更に推進し、各教科等の活動的・協同的な学びの精度を高めていく。 ・活用させる場面の単元計画への意図的な位置づけや、その授業や単元でどのような姿が見られればよいのか明記することで、手だての有効性を検討していく。
6.18	<input checked="" type="checkbox"/> 授 授業研究会① 1年数学	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらい、授業デザインについて検討 ・各教科における「活用する」とはどういうことかを議論

	1年音楽	<p>し、具体的な活用する場面について話合うことができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用させるには課題の設定が大切。既習事項を用いて子どもが解ける課題→喜びや面白さや楽しさが生まれる。 ・「活用する」のは、各教科で今まで学んだこと（既習事項）を生かすということに焦点をしばって、研修を進めていく。
6.25	<input checked="" type="checkbox"/> 外部講師による講話 (校内研修テーマに沿って)	<ul style="list-style-type: none"> ・知識・技能を活用する学習課題 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・活用する力をつけるとは、各教科における見方・考え方を学ぶこと。技能系においては自分の体と対話、言語化しより速く走る、より良いものを創るなど。 ・「できない」「わからない」という思いや事実に積極的な価値を認めていく。 ・子どもが聴き合える学習環境を整備する。→温かい雰囲気、クラス、学級経営、生徒関係 ・子どもが一人で取り組んでも解決できないような課題を設定していく。(ジャンプの課題) ・子どもが課題解決の過程で使える道具や手段を教室に用意する。
8.28	<input checked="" type="checkbox"/> 授業研究会② 2年社会	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらい、授業デザインについて検討 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ学習の中でキーワードが出て、それをもとに他の子が考えを出し、課題を解決できていた。(協同的な学び) ・子どもたちからでる疑問から課題を設定したり、子どもが主体となって考えられる課題であったりするとさらに活動的な学びになっていくのではないか。
10.9	<input checked="" type="checkbox"/> 指導主事B訪問に向けての指導案検討① (研修推進委員会)	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案の検討(ねらい、手だて、本時の展開) <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・ねらいにせまるための手だて(場面設定、既習事項の活用) ・評価項目、課題を達成したときの具体的な生徒の姿
10.15	<input checked="" type="checkbox"/> 授業研究会③ 1年体育 1年英語	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらい、授業デザインについて検討 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決の過程で使える道具(ボード)を活用して、子どもたちが班ごとに話し合いを活発にすることができていた。 ・始めのグループとは別のグループに自分の発表を聞いてもらう形態を意図的につくることで、ねらいに迫ることができた。
10.29	<input checked="" type="checkbox"/> 授業研究会④ 2年国語 1年理科	<ul style="list-style-type: none"> ・本時のねらい、授業デザインについて検討 <hr/> <ul style="list-style-type: none"> ・「あなたはどうか考えるか」「違いは何だろうか」「説明できるように考えよう」という課題設定や問いかけにするこ

	<input checked="" type="checkbox"/> 外部講師による講話、指導・助言	とで、さらに主体的・対話的な姿が生まれるのではないかと。子どもたちにとって間違いは学びのスタート。そのときに友達との対話や学習の時間を保障してあげることが大切になる。
10.31	<input checked="" type="checkbox"/> 指導主事B訪問に向けての指導案検討②(研修推進委員会)	・指導案の検討(授業展開、ねらい、手だて) ・単元で身に付けた学習内容を活用するための授業展開 ・ねらいにせまるための手だて、協同的な学びの工夫
11.12	<input checked="" type="checkbox"/> 指導主事B訪問についての確認(授業参観の観点、分担等) ・がん教育に関する総合支援事業	・指導案の検討・確認、授業研究会の進め方 ・指導案の最終確認と授業を参観する際の視点と役割を確認 ・授業研究会は模造紙、付箋紙を使って議論していく。 ・がん教育に関するこれまでの取組と授業研究会
11.20	<input checked="" type="checkbox"/> 指導主事B訪問 1年英語	・校内研修、本日のねらい、授業デザインについて検討 ・場面設定が既習事項を使うものとなっていた。(活用する力)また、話し合いのポイントが提示されたことで、協同的な学習がスムーズに行われた。 ・活用する場面を単元計画に意図的に設定し、そのための課題の設定を工夫し、活用している姿を明確にしておくことが大事である。 ・授業者や参観者が同じ視点で授業を見合うことで、授業改善に繋げることができている。
12.10	<input checked="" type="checkbox"/> 授業研究会⑤ 1年理科	・本時のねらい、授業デザインについて検討 ・タブレットを使って天体の動きを調べることで、意欲的に学習に取り組むことができた。 ・プリントやモデルを工夫したり、準備したりしたことで思考や説明がしやすくなった。 ・タブレットの使用については、単元計画やソフトの精選、台数の確保など今後も検討と工夫が必要である。
1.28	<input checked="" type="checkbox"/> ・研究紀要(川場の教育)の原稿検討 ・職員アンケート調査の実施と校内研修のまとめにおける検証と確認	
2.25	<input checked="" type="checkbox"/> 本年度の取組の総括、次年度の研修に向けた現状と課題の把握・分析	
3.18	<input checked="" type="checkbox"/> 本年度の校内研修の方向づけと確認	

※その他の研修

6.11 人間関係づくりに関する研修/QUの結果分析とSCによる講話

7.27 安全に関する研修/熱中症対応、部活動の事故、エピペンの使い方

4 研修の内容

(1) 中心的な取組

- ①「個人研究テーマ」と「具体的な手立て」の設定
 - ・各教科における「確かな学力」の捉えを明確にし、それを達成するための「個人研究テーマ」と「具体的な手立て」を設定し、年間を通して授業実践を行っていく。
 - ・校内研修の中心を授業研究とする。授業研究会は、各自の「個人研究テーマ」の達成に向けての情報交換の場として行っていく。情報交換の中で得た、各教科で共有できる手だてなどをその後の授業改善につなげる。また、年間を通して授業実践を行っていく中で、指導主事訪問や大学の研究者、管理職による助言を得て授業改善につなげていく。
- ②「活動的・協同的な学び」を取り入れた計画的・継続的な授業改善・教師主導の指導スタイルから脱却し、ねらいを明確にした上で、生徒が活動的・協同的に学び合う授業デザインづくりと授業実践を行っていく。
 - ・単元の指導計画に活動的・協同的な学びを位置付け、授業実践を行なっていく。また、活動的・協同的な学びを取り入れることによって不足するであろう、基礎・基本の定着に向けた学習も盛り込むことで、計画的・継続的な授業改善が図れるようにする。
 - ・「真正の学び」（＝教科の本質に沿った学び）、「ジャンプのある課題」（＝一人では解決できない難易度の高い学習課題）、「学び合う関係」（＝ピア・サポート活動との関連）、「振り返り学習の継続」の4つを意識した授業デザインづくりを行っていく。
- ③授業研究会の工夫・改善
 - ・授業研究会では、教科の壁を越え、生徒の学びの姿を伝え合うことで互いに次の授業づくりにつなげていく。
 - ・授業研究会の実施においては、研究授業を部活動のない月曜日に公開することとし、自習時間をできるだけ作らずに実施し、参観及び研究協議の場を確保する。
- ④家庭学習の改善・充実
 - ・「学習の手引き」の見直し及び活用を図ることで、家庭学習への取組の充実を図る。また、活動的・協同的な学びを充実させるための家庭学習の在り方や基礎的・基本的な学習内容の定着のための家庭学習の取り組み方を探る。
 - ・アクティオ手帳の活用を通して、明確な目標の下、計画的・継続的な家庭学習を推進していくことで、自律的な学習者の育成を図る。

実践の成果と今後の課題

(1) 成果

- 授業実践及び授業研究会を、ほぼ計画通りに実施することができた。また、指導案検討等は先生方の協力のもと必要に応じて推進委員会を開き、検討・議論することができた。
- 指導主事訪問Aでの指導助言、また外部講師の濱田先生による講話、指導助言を頂いたことで、今年度の副主題のキーワードである「活用する力」について、職員全体の共通理解が深まり校内研修の方向性が明確になった。また、授業改善のポイントが明確になったことで日々の教材研究、授業実践に生かすことができた。
- 「活用する」とは、各教科の既習事項を生かしていくこと、「活用する力をつける」とは、各教科における見方・考え方を学ぶこと、という共通理解のもと授業改善を行うことができた。また、各教科における「活用する場面」については、意図的に活用させる場面を単元計画から考えることができた。また、生徒が「活用している姿」を明確にすることを意識して教材研究や授業実践を行うことができた。
- 一人一授業の授業研究会では、「活用する力」「ねらいにせまるための手だて」「活動的・協同的な学び」「生徒の姿・変容」などに焦点を絞って意見交換を行うことで、研修テーマに対する職員の共通理解を深めるとともに、個人テーマにそった日々の授業改善に役立てることができた。
- 既習事項を活用させるためには、「課題の設定」が大事であることを意識し、授業改善をすることができた。
- 授業者や参観者が「活用する力」「ねらいに迫る手だて」「活動的・協同的な学び」「生徒の姿・変容」など同じ視点で授業を見合うことで、授業改善に繋げることができた。
- 学力向上コーディネーターと連携して、生徒の学力向上のためにNRTや全国学力調査の分析、放課後学習の取組、家庭学習の推進、アクティオ手帳の活用や定期テストの計画表など、授業改善と並行して行うことができた。

(2) 今後の課題

- 「活用する力」について、職員全体の共通理解を深めながら授業実践及び授業研究会を重ねたことで、先生方の授業改善に対する意識を高めることができた。しかし、研修のねらいである『基礎・基本の定着とそれらを活用できる確かな学力を身に付けた生徒』が達成できているかどうかは、やはりNRTや全国学力調査、定期テストなどの客観的な分析結果が必要である。本校の生徒の実態として、NRTや全国学力調査の分析、また日々の授業の様子から「応用問題」

「知識・技能を活用する問題」に対し課題が残る。引き続き、確かな学力を身に付けさせるための授業実践を行っていくとともに、さらには校内研修の成果の見取り方をより明確にしていく必要がある。

- 「活用する力」を伸ばすことは基礎基本となる知識・理解の定着にもつながる。また、活動的・協同的な学びの中で生徒は活用する力を伸ばし、深い学びも生まれる。校内研修の方向性は本校の生徒の課題と一致しているので、今後も各教科の特性と生徒の実態をよく踏まえた上で、単元計画、課題の設定、ペアやグループ学習など学習形態の工夫など、授業改善をしっかりと行っていくことで、授業の質を高め課題解決に向けて取り組んでいく。
- 子どもたちが「安心」「没頭」できる授業づくりを心がけ、生徒が生き生きしている、目が輝いている、身をのりだしている、じっくり取り組んでいる、しっとり落ち着いている、という時間をたくさん提供できるように授業改善を行い、今後もさらに授業の質を高めていくことで、確かな学力を身に付けた生徒の育成に力を入れていきたい。